



TITLE:

# <ゼミ単位取得論文> 世界不況における日中貿易に関する一考察

AUTHOR(S):

劉, 瀟穎

---

CITATION:

劉, 瀟穎. <ゼミ単位取得論文> 世界不況における日中貿易に関する一考察. 岩本ゼミナール機関誌 2009, 13: 166-176

ISSUE DATE:

2009-03-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/109824>

RIGHT:

## 世界不況における日中貿易に関する一考察

\*\*\*\*\*

### 目次

はじめに

#### 第一節 日中貿易の現状

- 一、国別貿易額から見た日中貿易
- 二、産業別貿易額から見た日中貿易

#### 第二節 日中貿易の分野別分析

- 一、日本の対中輸出産業の分析
- 二、日本の対中輸入産業の分析

#### 第三節 世界不況の影響：欧米市場の縮小

- 一、直接影響
- 二、間接影響

#### 第四節 今後の展望

- 一、中国の景気刺激策の影響
- 二、アジアに目を向ける

おわりに

\*\*\*\*\*

はじめに

1970 年末の中国の改革開放以来、日中貿易が大きく発展され、両国は互いに重要な貿易相手国となった。特に 2006 年に、日本の相手別貿易額で中国（香港を除く）が米国を抜いて最大の貿易相手国となった。

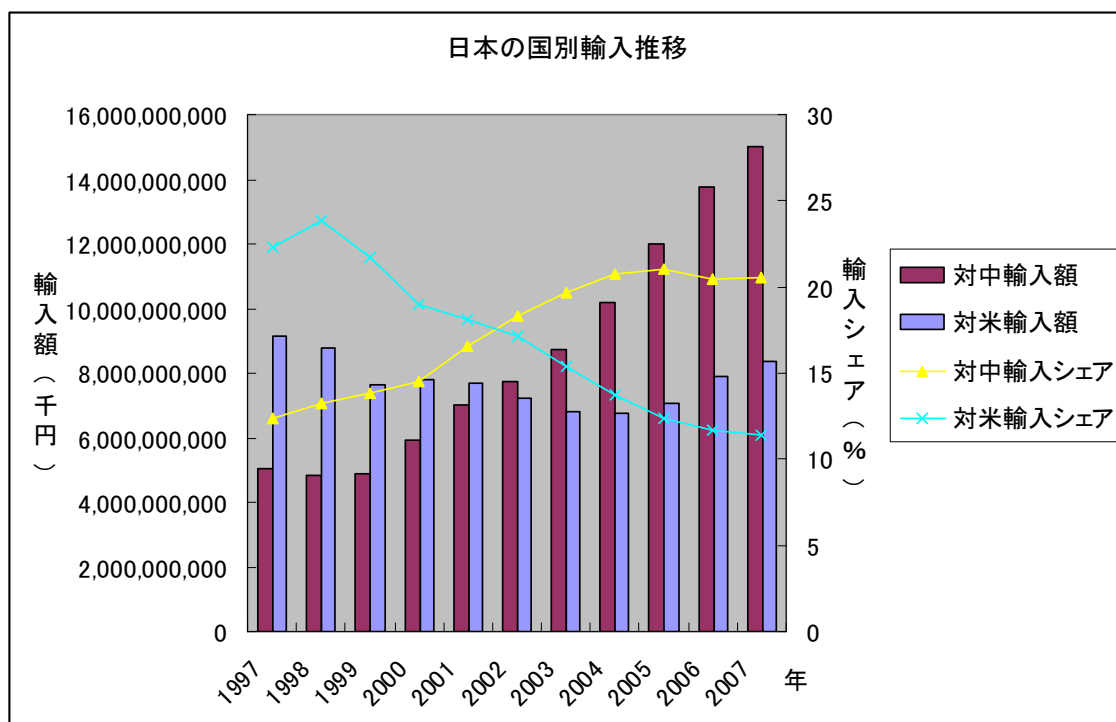
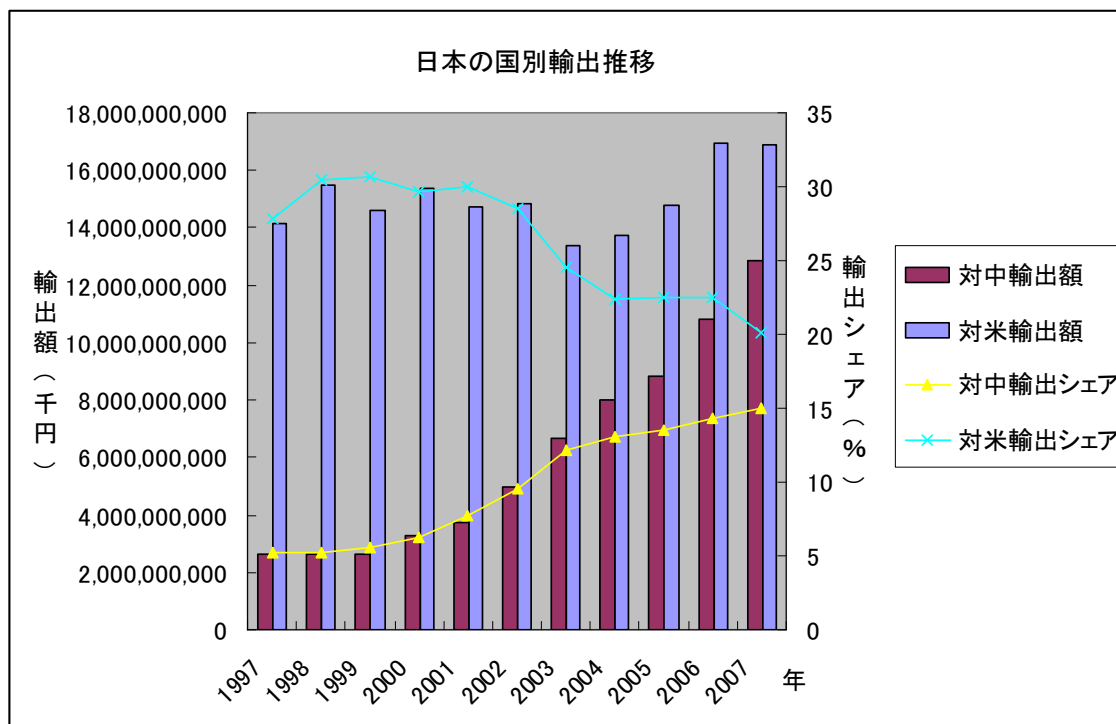
一方、2008 年米国サブプライムローン問題が、連鎖反応を起こし世界規模の不況を引き起こした。欧米のみならず、その不況の波は東半球にも影響を及ぼした。

では、その不況の中、日中貿易はどういう風に変化し、両国の経済にどのような光と闇を齎すのか、浅はかながら考察していこう。

#### 第一節 日中貿易の現状

- 一、国別貿易額から見た日中貿易
  - 1. 日本の国別貿易の推移（中・米）

図表 （ジェトロ貿易統計データベース<sup>1</sup>より作成）



図表で表されたとおり、1997 年から 2007 年までの 10 年間におき、かつて日本にと

<sup>1</sup> ジェトロ貿易統計データベース

[http://www3.jetro.go.jp/cgi-bin/nats/cgi-bin/top.cgi?PGID=000&REP\\_CNT=0](http://www3.jetro.go.jp/cgi-bin/nats/cgi-bin/top.cgi?PGID=000&REP_CNT=0)

って最重要の貿易相手国であるアメリカは、対日輸入・輸出とともに伸び悩み・減少する傾向が見られる。それに対し、中国のほうは着実にかつ急激に伸びていることがわかる。

日本対：	中国	アメリカ
輸出額	4.88 倍	1.19 倍
輸出シェア	5.2%→15%	27.8%→20.1%
輸入額	2.97 倍	0.912 倍
輸入シェア	12.4%→20.6%	22.3%→11.4%

## 2. 中国の国別貿易額の推移（日・米・EU）

図表（ジェトロの中国の貿易統計<sup>2</sup>より作成）

単位： 100 万ドル・%	輸出			輸入		
	日本	アメリカ	EU	日本	アメリカ	EU
2005 年	83,986	162,891	143,704	100,408	48,622	73,580
2006 年	91,623	203,448	189,848	115,673	59,211	90,631
2007 年	102,071	232,704	245,192	133,951	69,379	110,960
シェア	8.4	19.1	20.1	14.0	7.3	11.6
伸び率	11.4	14.4	29.2	15.8	17.2	22.4

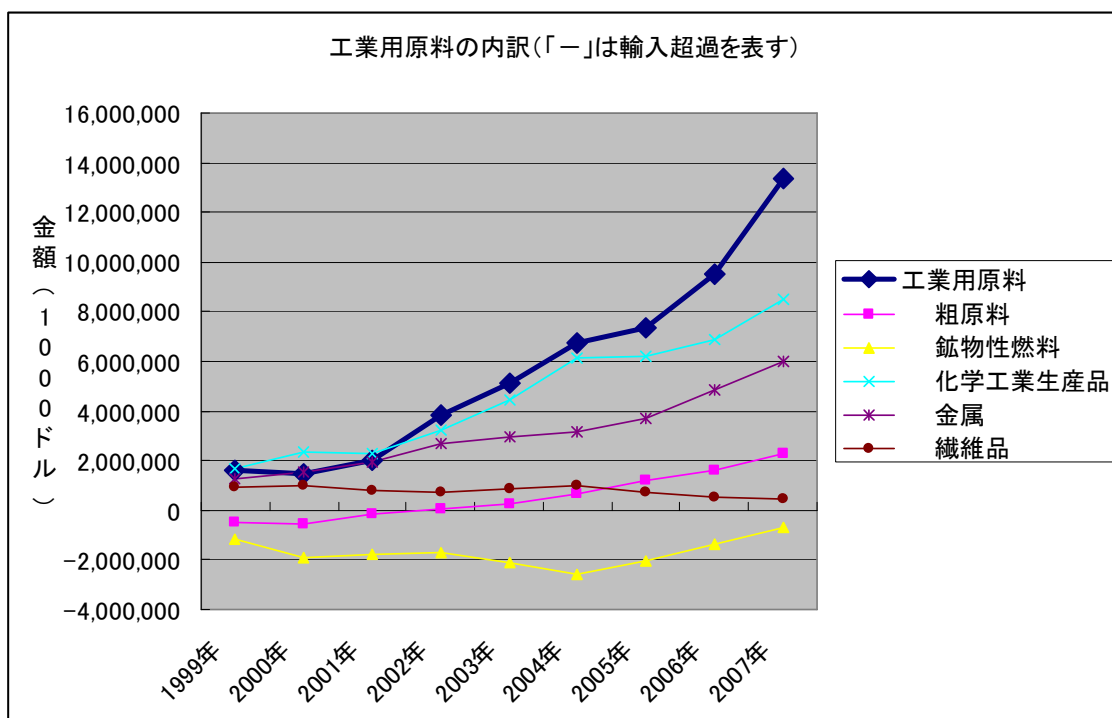
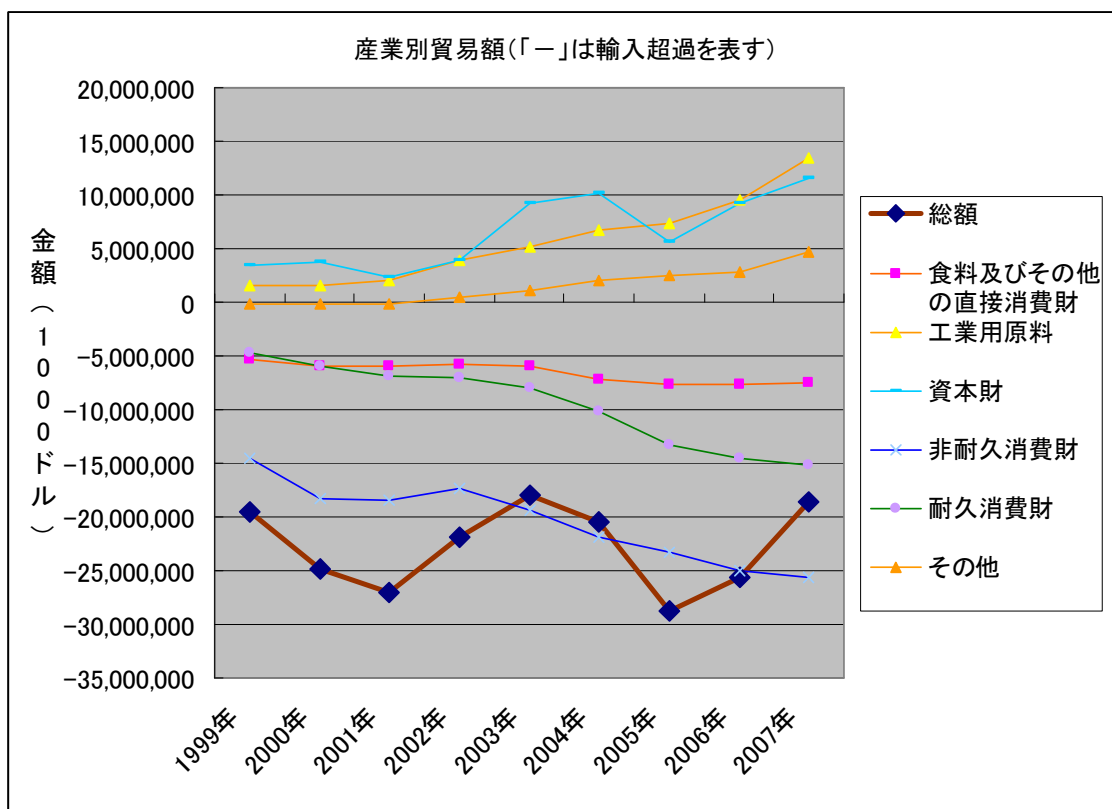
図表でわかるように、2007 年時点では、中国の対日輸出（日本の対中輸入）は EU やアメリカより低いシェアを占めている。一方、中国の対日輸入（日本の対中輸出）のシェアは一位になっている。

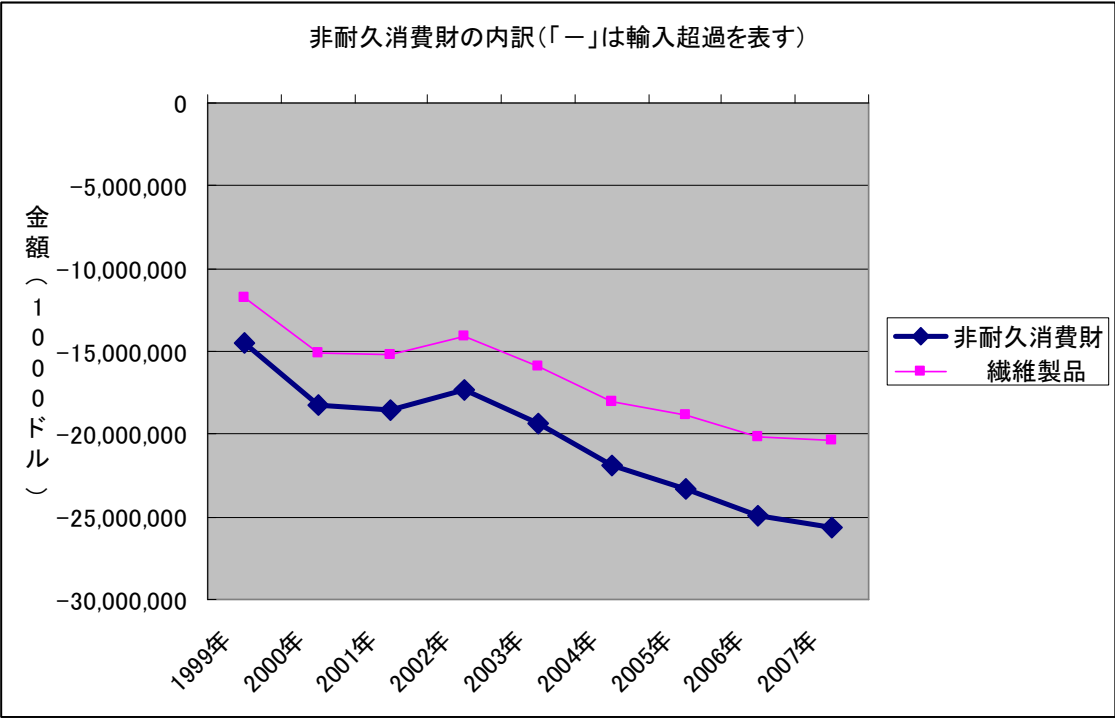
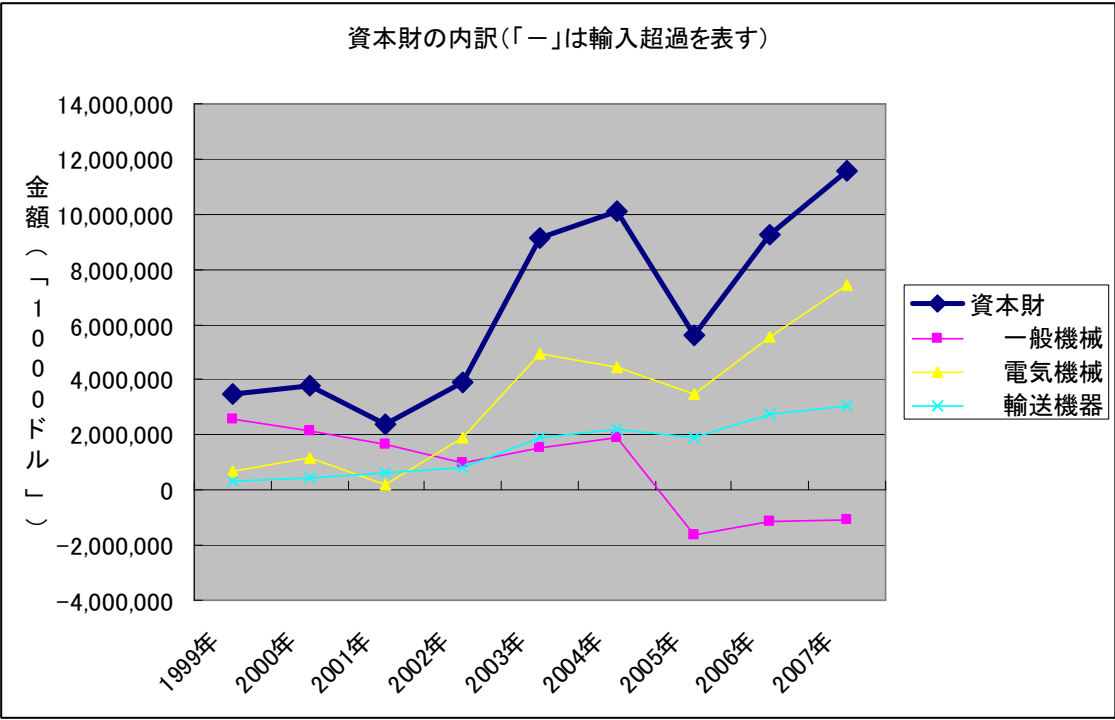
また注目すべきなのは「伸び率」である。輸出・輸入の両方とも、日本が他の二者より低い伸び率を示している。

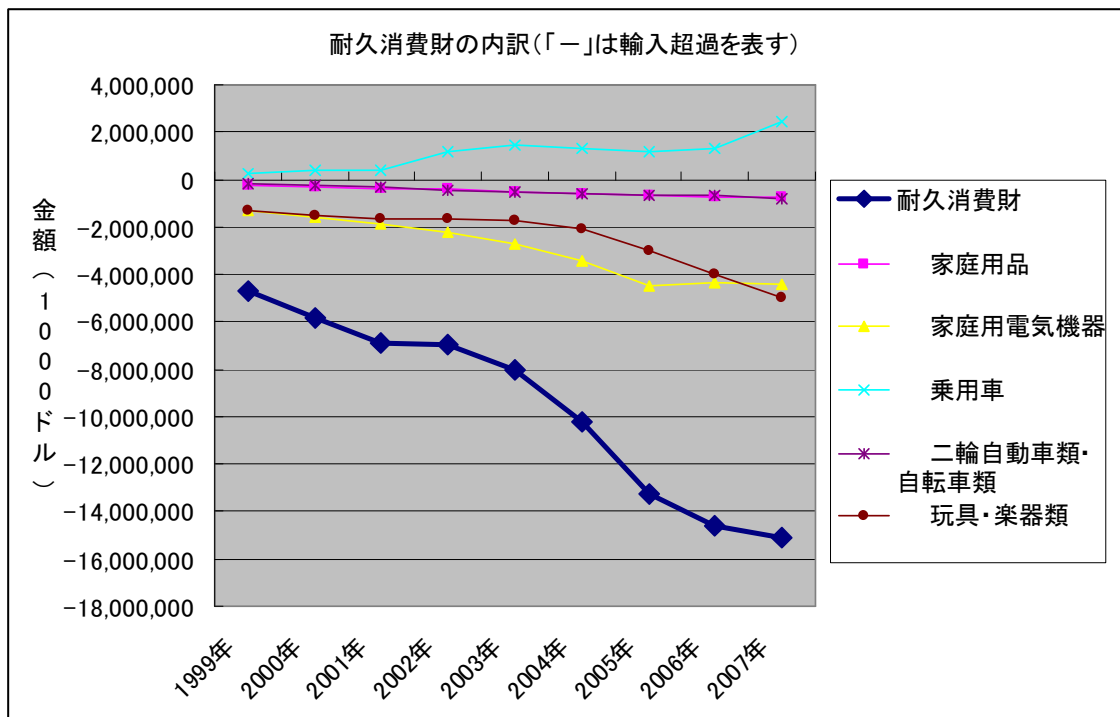
## 二、産業別貿易額から見た日中貿易

図表：（ジェトロ 日本財の貿易概況<sup>3</sup>より作成）

- <sup>2</sup> ジェトロのビジネス情報＞国・地域別情報＞アジア＞「中国 輸出統計(国別)」  
[http://www.jetro.go.jp/world/asia/cn/stat\\_02/](http://www.jetro.go.jp/world/asia/cn/stat_02/)  
 ジェトロのビジネス情報＞国・地域別情報＞アジア＞「中国 輸入統計(国別)」  
[http://www.jetro.go.jp/world/asia/cn/stat\\_04/](http://www.jetro.go.jp/world/asia/cn/stat_04/)
- <sup>3</sup> ジェトロのビジネス情報＞国・地域別情報＞日本＞貿易・投資・国際収支統計  
 「日本の財別貿易概況（1999～2007 年）」  
[http://www.jetro.go.jp/world/japan/stats/trade/excel/boueki\\_zai\\_2007.xls](http://www.jetro.go.jp/world/japan/stats/trade/excel/boueki_zai_2007.xls)







図表でわかるように、日本の対中輸出入は、工業用原料（鉱物性燃料を除く）・電気機械・輸送機器・乗用車の分野で輸出超過の状況であり、食料・鉱物性燃料・繊維製品・家庭用品・家電・二輪車・玩具などの分野で輸入超過の状況である。また、2004年までは輸出超過の一般機械は、2005年以降は輸入超過に転じた。

なお、総額については、日本の対中貿易は安定した輸入超過の状況になっている。

## 第二節 日中貿易の産業別分析

### 一、日本の対中輸出産業の分析

#### 1. 輸出超過産業の分析

前述のように、日本が輸出超過の財は、工業用原料・電気機械・輸送機器・乗用車など、比較的に高い技術力の要る工業である。

これらのハイテク産業におき、日本は技術力の優位性が発揮され、世界範囲にブランド力・競争力を持っている。

特に以下の要因が考えられる

##### (1) 一般機械

中国のインフラ整備と鉱物資源開発ラッシュに支えられる。

##### (2) 乗用車

高級車は富裕層や法人から需要が多く、輸出が好調。

##### (3) 電気機器

パソコン・デジタルカメラ・液晶テレビなど高付加価値の完成品は需要が大

きい。また、デジタル製品は中国の輸出産業でもあり、それ向けのキーパーツの需要が多い。

## 2. 輸入超過産業の分析

日本が中国に対して輸入超過の財は、資源である食料・鉱物性燃料と、労働集約型の繊維製品・家庭用品・家電・二輪車・玩具などである。

しかしこれらの産業においては輸入超過が現れているが、完全に輸入のみであるわけではない。輸入に下回るものの、輸出額そのものは横ばいか伸びているのである。

この状況には主に以下の原因が考えられる

### (1) 鉱物性燃料

中国国内における石油製品の供給能力の限界から、日本からの調達が増加。

### (2) 食料品

中国国内の食品安全性問題が注目されるようになり、富裕層は安心な輸入食品に対する需要が高まる。

### (3) その他

中国国内の貧富格差の拡大により、富裕層向けの高級品として日本の製品に対する需要が増大する。特に化粧品・ブランド衣料品などが人気を集める。

## 二、日本の対中輸入産業の分析

### 1. 輸入超過産業の分析

#### (1) 食料品

日本の食糧自給率と中国の低コスト要因によって、中国からの食料品の輸入が長年に安定している。

しかし、冷凍ギョウザ事件や粉ミルク事件の影響で、中国産食料に対する不信感が高まる。中国側も輸出食品に対する検査を厳格にする動きが現れ、食料品の輸入額が少し減少している。

#### (2) 鉱物性燃料

世界的な資源価格高騰の影響で、日本の対世界輸入額が高まっている。ただし前述のように、中国の国内において、原料の供給能力が限界を達そうとしているため、対中国の輸入額は下落気味である。

#### (3) 労働集約型の繊維・家庭用品など

賃金の上昇が言われつつ、未だに日本よりはるかに低い人件費を維持している中国は、労働集約型産業に優位性を持たれている。

### 2. 輸出超過産業の分析



日本が世界で優位性を持つハイテク製品に関し、キーパーツ以外の部品を中国で製造することによって、コストダウンを実現している。

その影響で、日本の対中国輸入状況は対世界輸出状況に連動する現象が見られる。

#### (1) 電気機械

日本でのパソコン販売が堅調で、パソコンのディスプレイなど部品の輸入額に伸びが見られる。

#### (2) 輸送機器・乗用車

日本の自動車メーカーに部品生産を任せられ、日本の自動車完成品の対世界輸出にけん引され、部品の輸入が順調に伸び続けている。

### 第三節 世界不況の影響：欧米市場の縮小

サブプライムローン問題に端を発した金融市場の混乱などによって、欧米諸国の消費が停滞した状況に陥っている。

その影響で、金融市場のみならず、製造業にも大きなダメージを与えられている。日中両国は対欧米輸出額が伸び悩み、そして両国間の部品輸出入にも大きな影響を及ぼしてしまう。

#### 一、直接影響

##### 1. 日本の状況

米国発金融危機は円高を引き起こし、欧米の消費市場を縮小させた。

この二つの要因により、日本の電気機械や自動車などの分野で、輸出の落ち込みが顕著である。昨今マスコミで目にする製造業の大規模な人員削減は、正にその影響である。

##### 2. 中国の状況

2008年における対米輸出の伸びが8.4%と大きく鈍化、WTO加盟以来の最低値を更新した。「中でも機械電子製品が同9.6ポイント減の6.4%増、衣料品及び関連製品がマイナス1.2%、プラスチック製品がマイナス0.9%、玩具がマイナス3.1%と大きな落ち込みを見せた。」<sup>4</sup>

#### 二、間接影響

それぞれの対欧米輸出悩みが、お互いの部品輸入にも影響を及ぼしている。

前述のように、中国の対世界輸出に大きな割合を占めるデジタル製品に、キーパー

---

<sup>4</sup> レコードチャイナ、

「＜中国製品＞08年の対米輸出が急減速、市場シェアでカナダに抜かれる」

<http://www.recordchina.co.jp/group/g28393.html>

ツは日本から中国に輸出している。一方、日本の輸出産業である電気機械や輸送機器・乗用車に、部品は中国に生産を任されるケースが非常に多い。

これらの分野における日中貿易は、それぞれの対欧米輸出に大きく左右される。欧米諸国の消費停滞は、完成品輸出に大きなダメージを与えるのみならず、部品にも深刻な危害をもたらしている。日中両国の製造業は、世界不況によって、二重の被害を受けているわけである。

#### 第四節 今後の展望

##### 一、中国の景気刺激策の影響

###### 1. 中国の景気刺激策内容

2008 年 11 月 9 日、中国の温家宝首相が中国の内需拡大政策を発表した。全体の投資規模は 4 兆元（約 56 兆円）であり、以下の 10 項目が確定されている。

- (1) 低価格な住宅建設の拡大
- (2) 農村の基盤建設
- (3) 鉄道・高速道路・空港などのインフラ整備
- (4) 医療・文化・教育事業の推進
- (5) 生態・環境関連対策の促進
- (6) 自主的な革新と構造改革の促進
- (7) 震災被災地域の復興加速
- (8) 農村部を含めた国民の所得の引上げ
- (9) 付加価値税の減税・企業負担の 1200 億元の軽減
- (10) 銀行貸し出しの拡大

###### 2. 中国の内需拡大が日本に及ぼす影響

他国の危機に対する救済策と対照的に、中国今回の景気刺激投資は、金融市場よりも実体経済へ投下することが特徴である。

###### (1) 社会インフラ整備による建設機械・原料の需要上昇

第二節で述べたように、建設機械・農業機械など一般機械の分野においては、日本が中国に対して安定した輸出を保っている。今まで中国の建設ラッシュにけん引されてきた一般機械の輸出は、今回のインフラ建設により、需要が保障される見通しである。

また、日本が技術的優位性を持つ工業原料の輸出も、中国の内需拡大によってけん引されるのであろう。

もちろん、これらの需要は一部が中国国産品に流れることが考えられるが、日本の技術優位性のため、少なくとも暫くの間は日本の輸出に依存すると思われる。

全体的な内需拡大による消費財の需要上昇

第二節で述べたように、中国の富裕層で日本製品、特にブランド衣料品・化粧品などに人気が集まっている。中国の内需拡大によって、これらの産業に積極的な影響が期待される。

## (2) 全体的な内需拡大による消費財の需要上昇

第二節で述べたように、中国の富裕層で日本製品、特にブランド衣料品・化粧品などに人気が集まっている。中国の内需拡大によって、これらの産業に積極的な影響が期待される。

## (3) 日本の対中輸入

前述のように、日中両国の経済はある意味で共存な状態となっている。中国の内需拡大により、日本からの輸出に対する需要が拡大する一方、雇用拡大などの意味でも、輸出産業を維持することが必要である。欧米市場が低迷し、その輸出先は日本になると考える。

日本にとっても、経済不況の時期こそ、中国製の低価格製品に対する需要が大きいのであろう。

## 二、世界不況をチャンスに、アジアに目を向ける。

欧米市場の低迷により、輸出に大きく依存する日中両国は、アジアに目を向けるようになった。

日本財務省が発表した 2008 年 7 月の貿易統計速報によると、日本の対中輸出は初めて対米輸出を上回った。「自動車や自動車部品の輸出減少を受け、同月の対米輸出は 11.5%減の 1 兆 2763 億円で、11 カ月連続の減少となった。一方、対中輸出は良好で、38 カ月連続の増加を示し、同月は 16.8%の大幅増で、過去最高の 1 兆 2864 億円に達した。」<sup>5</sup>

中国も、第三節で述べたように、主は加工業で占めている対米輸出が急減速し、一方食料品などの対日本輸出が安定すると思われる。急な逆転が予想されないものの、欧米依存からアジア（中国の内需も含む）へ転換していることが確実であろう。

おわりに

日中両国は古来緊密な経済関係を築いてきた。近代に入ってから、政治・文化の衝突が起こっているが、今は切っても切れない経済協力関係が成り立っている。

---

<sup>5</sup> チャイナネット、「日本の対中輸出、初めて対米輸出を上回る」  
[http://japanese.china.cn/jp/txt/2008-08/24/content\\_16318905.htm](http://japanese.china.cn/jp/txt/2008-08/24/content_16318905.htm)

この米国発世界不況は、大きな危害を齎したと同時に、アジア域内の経済協力関係、特に日中両国の経済協力関係を見直すチャンスにもなる。これを契機に、それぞれ欧米からアジアに目を向ければ、日中貿易が更に盛んでいき、アジア域内経済の活発に繋がると私は思うのである。

参考資料：

- ・ ジェトロ貿易統計データベース  
[http://www3.jetro.go.jp/cgi-bin/nats/cgi-bin/top.cgi?PGID=000&REP\\_CNT=](http://www3.jetro.go.jp/cgi-bin/nats/cgi-bin/top.cgi?PGID=000&REP_CNT=)
- ・ ジェトロのビジネス情報、「中国 輸出統計(国別)」  
[http://www.jetro.go.jp/world/asia/cn/stat\\_02/](http://www.jetro.go.jp/world/asia/cn/stat_02/)
- ・ ジェトロのビジネス情報「中国 輸入統計(国別)」  
[http://www.jetro.go.jp/world/asia/cn/stat\\_04/](http://www.jetro.go.jp/world/asia/cn/stat_04/)
- ・ ジェトロのビジネス情報「日本の財別貿易概況（1999～2007 年）」  
[http://www.jetro.go.jp/world/japan/stats/trade/excel/boueki\\_zai\\_2007.xls](http://www.jetro.go.jp/world/japan/stats/trade/excel/boueki_zai_2007.xls)
- ・ ジェトロのビジネス情報「2008 年上半期の日中貿易」  
<http://www.jetro.go.jp/world/japan/reports/05001587>
- ・ ジェトロのビジネス情報「米国発金融危機による日本企業の海外ビジネスへの影響」  
[http://www.jetro.go.jp/world/n\\_america/reports/05001633](http://www.jetro.go.jp/world/n_america/reports/05001633)
- ・ レコードチャイナ  
「＜中国製品＞08 年の対米輸出が急減速、市場シェアでカナダに抜かれる」  
<http://www.recordchina.co.jp/group/g28393.html>
- ・ 新華社ニュース「温家宝首相が新しい景気対策を発表」  
[http://news.xinhuanet.com/newscenter/2008-11/09/content\\_10331258\\_1.htm](http://news.xinhuanet.com/newscenter/2008-11/09/content_10331258_1.htm)
- ・ チャイナネット「日本の対中輸出、初めて対米輸出を上回る」  
[http://japanese.china.org.cn/jp/txt/2008-08/24/content\\_16318905.htm](http://japanese.china.org.cn/jp/txt/2008-08/24/content_16318905.htm)